



間もなく、今年度第1回目の定期試験です。来週の20日・21日という日程とともに、試験の範囲も示されているところです。1年生にとっては初めての定期試験ということで、多少の緊張感はあるでしょうが、大切なのは平常心で臨むことです。そして、何よりも計画的なテスト勉強ではないかと思えます。小学校の時と大きな違いがここにあるわけで、担任の先生から渡された学習の計画表を、自分なりにしっかり作成してほしいです。一方、2・3年生は慣れているとは言うものの、最初が肝心ですから、これまで以上に計画的な学習と勉強時間の確保を心掛けることが重要です。ご家庭でも、ちょっとした声掛けで取り組み方も変わってくると思えますので、是非ともよろしく願います。



ところで、「中学校では成績が大切だ!」というのは、保護者の方々も生徒の皆さんもある程度は理解してもらっていることと思えますが、では何故大切なのでしょう。それは、進学であれ、就職であれ、中学校の成績（5段階の評定＝5・4・3・2・1のこと）は無関係というわけにはいかないからです。つまり、将来の進路選択に関わってくるということになります。中学校での成績について、Q&A方式で以下に示しますので参考にしてください。

Q1 「内申書」って何？

「内申書」は「調査書」とも言いますが、学校の成績や学校生活をまとめたものことで、中学校の先生が作成して受験（三重県立の高校は「受検」）する高校等に提出し、合否判定の資料の1つとして使われます。「内申書」に記入される成績は、3年生のもののみとは限りません。学校によっては、1年生～3年生までの全てを記入する場合があります。また、「内申点」と言われるものは、「内申書」に記載される成績（5段階の評定）のことを意味していて、5段階の評定×9教科の45点満点の数値を指す場合がほとんどです。

Q2 成績はテストで決まるの？

先生が成績（5段階の評定）をつける場合、テストの点数が重視されることは当然のことです。しかし、それだけではなく、むしろ普段の授業での取り組み方が大きく影響します。今年度から、いわゆる「学習指導要領」が新しくなり、成績のつけ方が変わることも知っておいてください。5段階の評定はこれまで通りですが、「観点別評価」（A・B・Cで表示）が、これまでは4観点（国語科は5観点）であったのが、全ての教科が3観点となります。その3観点とは、次の通りです。

- 知識・技能 = knowledge (ナレッジ)
- 思考・判断・表現 = intelligence (インテリジェンス)
- 主体的に学習に取り組む態度 = mind (マインド)



上記3観点の評価によって、5段階の評定が決まります。先生は、様々な機会をとらえ、授業（または提出物等）の様子によって3観点について評価をしているのです。なお、3観点の評価が、どの様に5段階の評定になるかについては、またの機会に説明します。

Q3 成績アップのコツは？

単に「勉強なさい!」だけで成績がアップすれば、それにこしたことはありませんが、現実にはそう簡単にはいかないでしょう。では、普段の授業中にできる成績アップのコツとは → ・発言の機会を増やす ・自分なりのノートの取り方を工夫する ・先生の話に常に耳を傾ける ・班活動を頑張る ・授業の振り返りをきちんと書く など



部活訪問① バレーボール部・剣道部

学校だよりの新コーナーとして、「部活訪問」を企画しました。日頃から、各種大会やコンクール、文化祭等への出品などに向け、一生懸命に取り組んでいる様子を紹介します。中には、部長・副部長や顧問の先生へのインタビューも！！
★コーナー初めてとなる今回は、「バレーボール部」と「剣道部」です。

【バレーボール部】顧問：宮地誠也先生・松本あかり先生 部長：野崎笑渚^{のざきに な} 副部長：遠藤穂乃香^{えんどうほの か}

何度も何度も繰り返しトス練習をする、初々しい限りの1年生たち。今年は、新入部員が7名入部し、先輩たちの練習ぶりにも活気があるように感じられました。

部長の野崎さん曰く、「元気で仲良くとをモットーに活動しています。バレーは、一つのボールをみんなで一生懸命つなぐところが魅力」とのこと。今年の目標に「県大会ベスト4」を掲げるなど、常に高みを目指している様子が見てとれました。



アドバイスを送る宮地先生

「大会ごとにチームとしてまとまりが出てきた」と笑顔で話す顧問の宮地先生。「課題は何ですか？」の質問には、

「基本的なことがきちんとできるようにすること。それは、プレーの精度を上げることもですが、挨拶やマナーを大切にすることです」と答えてくれました。もう一人の顧問である松本先生からも、「目標とする県大会に向けて全力を發揮しよう！」とのエールをいただきました。これからの、バレーボール部の活躍ぶりがとっても楽しみです。

【剣道部】顧問：城口直紀先生・三根清子先生 部長：松平彪雅^{まつひらひゅうが} 副部長：奥村輝^{おくむらあきら}・三浦翔琉^{みうらしょうご}

この日も、「めーん！」「どおーう！」の声が体育館に響き渡っていました。武道の部活動としては、本校で唯一となる剣道部。剣道の理念に「人間形成の道」というのがあるのだそうですが、剣道部は、まさにその理念の如く、人間形成の基本とも言えるあいさつがよくできるクラブ…という印象があります。顧問の城口先生へのインタビューでも、開ロ一番「あいさつをきっちりすること、礼儀を重んじています」という言葉が返ってきました。



今年は、新入部員が男女合わせて8名入部し、まずは基本からとばかりに、練習を見守る城口先生



竹刀を振る練習をしっかりとやっていました。「目標である県大会出場はもちろんのこと、さらに上を目指していきたい」と語るのは部長の松平さん。「剣道の魅力は何？」の問いには、「自分自身を高めて、剣道以外の部分でも活用できること」と答え、頼もしさと逞しさを感じました。昨年から引き続き顧問を務める三根先生からは、「ホントにいつも頑張っている姿が素晴らしい！」と絶賛のメッセージをいただきました。

コロナ禍での武道は、他の競技よりも大変な部分や苦勞も多いのではと推察しますが、いつも元気一杯の剣道部です。

梅雨入り前の つ・ぶ・や・き …



◆サッカーの『亀山市中体連春季大会』が、5月8日(土)によろやく終わった。観戦することができたのは良かったが、結果は亀山中と「0対0」の引き分け。しかも、対関中との得失点差で2位とのこと。試合ぶりからして押し気味だったのにと、若干悔やまれるが仕方がない。次回の奮闘に期待したい。

◆我々教師の各種会議や研修会が、軒並み「リモート」となっている。本校のPTAも、総会を皮切りに、この度地区集会も中止の判断となった。あと、修学旅行がどうなるのか。とりあえずは延期にはしたものの・・・。

◆家庭訪問が無事に終わった。都合をつけていただいた各ご家庭には感謝 m(__)m